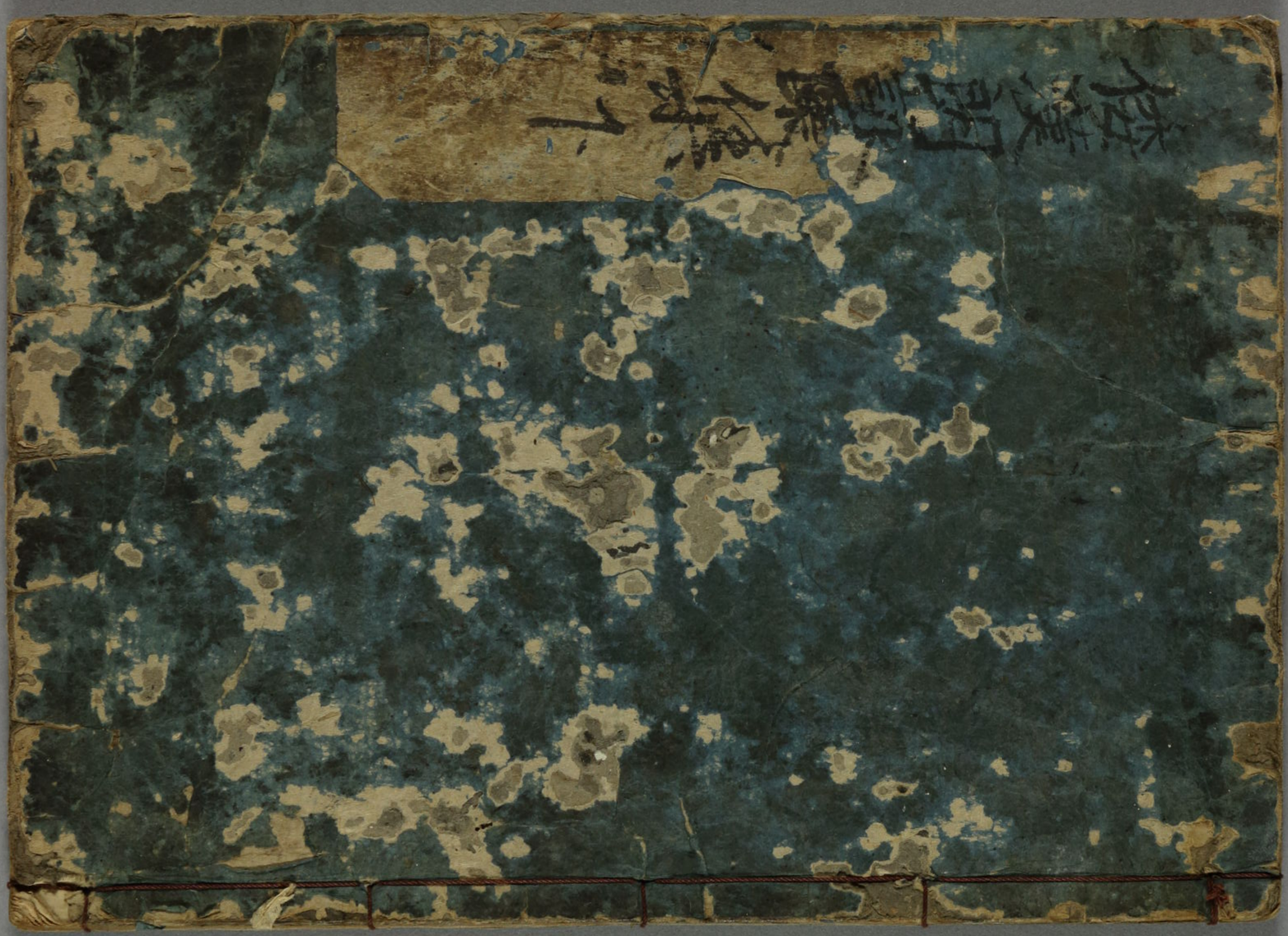

傚漢明諒集卷下

諏

風

曉

草

雲

松

鶴

晴

竹

稿

管經夜校 付

文朝芝 付

洞

山 付山水
古寺 付漁父
山家 付樵客
山寺 付僧
閑居 付隠逸
幻拠 付道士

水 付漁父
古寺 付樵客
田家 付隠逸
佛事 僧
庚申 帝王 付武官

禁中
仙家 付道士
漁家
餞別

親王 付皇族
判史 諏訪史
妓女 遊女
遊女 懐古
慶賀 祝
無常 白

親王 付皇族
将軍 王昭君
老人
述懐
恋

雜

風

春風暗ニ吹キ庭ノ樹ノ葉偷ニ翻ル
小松易ク老ヒ欲シ惜ム明君カ祝流水ヲ
庭ニ送レ列ヲ雲ニ乗ヒ
漫ニ多ク年ヲ歴テ

羽根載扇恋

あさつゆのよそめもとくるおきのえはとはでてもしるしかな

月

竹羽潮浦雲漸歇

秦嘉妻月老吟篇

山雲擁行客

五月望雲有時見月

陶茶詮越

漢帝龍旌

軍雲

風

風生

寒風

朝里礒

潮

服泥

墨生

倫

淮

たつまの山もうつろひやすみるものしもの

晴

煙消テ門外ニ青山新シ雪霽テ嶺上ニ白雲収ル千里ノ外ニ月清シ半天ノ腹ニ瀑布ノごとく泉ノ如ク流レ雪ノごとく花ノ如ク飛ブ誰カ解ン風動ノ清景ヲ

雲鶴出巣ニ牧童ヒテ驚カ臥レ牛ヲ渓ニ帰レバ雲ニ鶴ヒテ看テ見ル飲レ渓ノ鹿ヲ

かりくらしみるものそともなきそらのあるかなきかのゆふづくよ

暁

佳人晨粧ヲ於レ窓ニ新ラ鏡ヲ匣ヲ動ヒニ

紅粉ヲ猶ホ殘レリ眉ニ一痕ノ月ヲ

幾夕南ニ屬一片西傾ク月
赴テ征路ニ獨リ行ク客
泣テ二孤城一百感フ
家林ヲ遠ク中千有餘里
寒擣ノ砧ノ聲宮漏初明ニ
聲ノ寒キ砧ノ聲ヲ
あくるよりはやうきものは
をきてもの淋しかりけり

松

作有美松當ル砌ニ
青ク有雪猶ホ殘ル枝ニ
更ニ一事ノ可キ
堪ヘ賞スル
雖カ被ル雪ヲ

九月二侯ル暑月ノ竹会催ス風
雲ノ気雪ノ寒キ朝紅葉ノ徳ヲ
十八年ノ昔ハ二一子年ノ西ノ源ニ
倉廩頭杜天ノ霜タリ焼林ノ会ヲ
とさくれふまろかりもみぢ
いろのうつろひまさりけり
もみぢをひろふ
きのひのうつろひ
おもくくるおもひ
なりへひさしをみよう
のまり

竹

煙葉ノ翠タリ緑ヲ傾ケ露色ノ風ニ
驚ク十二年
隋経ノ味ヲ抽ン今月ノ二
晋駅ノ春ノ軍ヲ献ズ看ル處ノ物ムニ
古ノ子ノ客ニテ白楽天ノ篇ニ吾カ友ト

草

鶴

煙水人不踏
利名客稀到
閑雲清影入胡但見群鶴舞
原野春草生
春来花下多
清歌教琴柱寒
愛舞庭前花
鶴歸雲里千年
新儀陶安之詞
飢龍生踏苑
叫清宵聞鶴夢

わかうらなみたちくまなかなる
あしへをわたるたづのなきこゑも
おほうみのおきつしらなみたちくらし
あまのかるもにやどりするころ
よるのうちにふりつもるかな
みよしのの山のしらゆきふみわけて
いりにけるかとひとのとふまで

猿

獄舎霜満一聲猿
天已暁
渡煙深処夜行人

猿

江上渡初聞子猿
三峡猿声重陽好
一聲一行秋淚高
胡笳一弄悲風遠
二月晩雷沾人袖
人稀一穂煙村僻
暁渡羅渓猿一叫
暮林紅葉鳥声寒

管絃同音掃木葉
ひとりらてまらうとの
山ちへおろふやあらぬ

管絃　付舞曲

一聲風管秋霜冷　奏曲顧愁雲
数拍霓裳暁月送　一第二絃添別淚
第三第四絃冷々　第五絃撥拂流水
隨弄管絃意自異　令使人知二
秋令使下裁元婦一絃得之
羅綺之客皆衣妬　管絃之在二長曲一
莫レ令二閨婦一聞

第三第四絃冷々　第五絃撥拂流水
隨弄管絃意自異　令使人知二
秋令使下裁元婦一絃得之
羅綺之客皆衣妬　管絃之在二長曲一
莫レ令二閨婦一聞

為梅園春高屐攜
相如著挑文君得
こゝの秋うみのいつものとをもち
文詞付之篇中子細
流洞簫按若游魚銜鉤
深深連碧島翠嶼集芳洲

黄文三千軸神金五萬斛
よく把握レ骨不レ握レ
言端不レ倫鶏鶩
錦帳曉開雪梅
昨日今日之木枝諸人今日庭
前之花洞察於人

主沢葉之張徐晉書事之同学
江淹一対之友情
陳孔璋詞翰之会心
贈答新恩報謝之石鞭
いつそうのおきよりをれいのけうら
そうこのそうもうしうけ
酒

新豊濃るほどに
もろもろ参り曲
宮建武和字
酒徳頌
白玉盃
陸機賦

山

伏見の里に旅宿して海上遠く雪の中に
勝地を望む

都より雪を見に来て山ごもり
夜鶴眠を驚かす

絶景抛ち来る看る処毎に
応に興林風を待つべし

かのくてやまはみてをりけり
うつひのそわをかけ
そのかつらよりやまおろし
おりくよさむのゆきつもりあるらめ

山水

泰山不譲土壌故能成其高
河海不択細流故能就其深

巳ばかり一叫得舟於明見浦こゝを
胡馬包野失路
礒ル日暮ハ青ミ
漁舟火ノ寒焼
山紙屋風記ハタリ
草木枝踈春月

遥ニ藏煙ノ字河伯ノ民
轅廬獨住ク
蘇ガ毎ク泊瀬
山猿ノ聲ヲ
多雅郎深ク
郎嘉樹ノ開処海邊ノ村暮時

水 付漁父

秋萩の咲き乱れたる野辺を見れば
心も空に乱れまされる
月影は清く照りたるに
うそをつくとやうなりて
乃ちうそをつくとやうなりて
ふるさとを先出でたりし
人のこと

風流なる雪月花の詠歌の為にも
賞すべき名所旧跡の数多
三条の橋金閣寺
鶯の鳴き囀る梅林
夜桜見物に行く
処女の貞操
勤倹にして富を積む

古京

弘法大師御筆額
菅家誕生
御硯箱
御筆
菅原洞天
桂翁
きくてくらうをも
うつそみ
月のうちを
いみへはそ
いまれをおそ

仙家 付道士浴倫

靈中主神
外宮
藥爐有
丹竈
雁
水自
山底探
歌洞中
樹鶴
三靈
雲深
方
家
詩十二樓
橋

音天吹花聲流於紅桃浦
碧風搖葉香分柳陌
誰入仙家雛
歸意里纔二
丹竈乃成仙
不留洞門
何事桃林馬

桃李宜春義
高一丈
高山岸
雲深雪
面妻源
如是晩
なまくらもやまうちのあるよ
つくらねいもとをぬる事

山家

生憂寺鐘殘雪曉
蘭若村稀松下路
漁父晩弘多浦月
半窗書罷一燈青

紀頌之家枕中數竹林無名子

花ぞのゝ春をまつ間に洞裏の朝霧
晴てはやまの腰にたなびく
龍尾峯の春雪をはらひ捨て
やまふところはよりの内
のうさよりはすこまさりけり
山さとはものそうき
人めをもとくもとりなりけり

田家

柴籬の梢に鶏の鳴聞ゆ
もる家一つ大道ゝの辺
野もせ打返す農夫の歌
蘭亭村閭の景処
ろの田をうまかへしてわたるなり
けふのうちもとはるゝ
これすゝきはさまぬ
ありをたこいさりそうる

さよふけそさるのこゑ
つきのふもとのうら〳〵

清水

月よ好風に深秋の
雲を拂ひて仰ぐ
清水の舞臺
欄干に倚れば
遠近の燈火
星の如く
滄溟の波
鏡の如し

山寺

春爛漫
遊人
きそひやまふかき一ノ谷
うつろふまくもむらさきの

山寺

千株松下
更に僧有り
衆色
一葉の
夕陽
鐘を
聞く

岡松ヲ栢ノ下ニ於テ
葉ノ馬ニ乗リ時ニ思フ
急ニ信ニ依ラスル
人ノ心レニ鳥路ノ雲ニ
ニ三番ノ服ニ和ス
衆能ク法ニ同ノ
ヲ

ヲ金ト
風ノ行ク丁ヲ
ヲ世ノ俗ク語ヲ
ヲ詠ノ詩ヲ
ヲ二同ノ筆ヲ
ヲ葉ヲ風ニ
ヲ

ヲ和ノ
ヲ
ヲ

佛事

月德ニ
大吉ニ
取次ハ

ニ
ヲ
ヲ
ヲ
ヲ
ヲ

猶ホ〻漢籍ヲ當テ來世ノ讀ム
用ヒ玉ハン輪ホ〻海ト
一面ニ勿動堂ニ掛種子十二年功德林
ヤ勿ル忘ヤ一年ニ
ハ六ツ堂ノホ〻ニ易ヤ
雖モ惡ヲ行ホ〻ニ構ヒ惡ヲ作ル
雲雷雖ニ一念ヲ必ス慈雨ヲ降ス
海ホ〻納消ス
昔初利天ニ安居九
夢裏ニ參拜河ホ〻城ヲ
多年堂ニ廣ク
浪洗歌消ス雖ヲ行ニ
馬ニ顧ル打

易往閑苧窮
念極樂之尊
如來會二朝
聖衆影恩官
眷屬養之源
佛神通事
叩陳蘭菜寒
二緑雪後初
心にしうそうの
のるをおそめ
ちるうぐひすも
てめるまてそ
このもかてはさ
きそひくをも
ゆめくるなや
やうそもまふ

僧

蒼茫泥雪夜ノ
雲ニ燈風ノ影
野寺ニ訪僧ノ
雲有リ無儀堂ニ
有リ無真ノ

閑居

不獨記棗莊靜閑居
恭逢之奈會知皇唐大和聖
ふさ理世安樂之旨
宮車一ヒ棲其駟雞上綿羅之
駟雞上綿羅之三千暗老
幽窓有月ノ〻時
幽窓有月ノ〻時
幽窓有月ノ〻時

旅枕猶幻の船おき東海のこなた
都府楼纔に看る笠沙の雨
観音寺已に見る竹林の風
晩に来て物色得がたし
閑に対して光陰惜むべし
わりなきこころとどまるまでとや
ちるさくらかな
暁月

風飄白浪岸上の雪
日出紫雲掌中の暁
濟美顔回陋巷の樹
清貧原憲茅茨の月
見えぬ山も高嶺の雲
長安城も遠村の雨
江湖満渚人釣雪の潮

一行斛一鬪也淵明一見便欲
老服暑強而
見つくもはやさとこさまそ
もやこうをろよめ

餞別

急雨洗暑知行雲
前途程遠思於屋

九月廿日江戸を發一葉丹花の額
鎌倉海上朝なぎ
たゝりやおろ〳〵
おもへ〳〵
うらゝかのけふのコク
人〳〵そし
いのら〳〵
あゝうらゝかのうみ

幻梅

霞ニ籠ル時風雪ニ乱レ梅ノ花
幻ニ立テ雪ト消ル梅ノ花
昨日ニ暖ク今日ニ暁ヘ寒キ
暁ヘ寒キ洞ノ梅ノ花
吟ス新高梅浦ノ詩
晴ル日冷

渡ノ部船ニ乗ル出ツ汐ノ潮ノ満ツ時ノ着ク
汐薫ノ松ノ風ノ寒キ
蒼々ノ波ノ音ノ高キ山深キ夢
かりくらしまかくれもせぬ
わたのそこやそこもしらぬ
人はつもよもあれつるを
あまりあるふくやうやあり舞
うらうらのせきいとゝ

庚申

年古ク二ノ月ノ初ノ申ノ日
ニ角ノ豆ヲ煎テ食ヒ
れうれうのえさうそ
あまの汐きさうそやそ

帝王

漢ノ三尺ノ剣ヲ抱テ
二条ノ后ヲ良一

実ニ書ハ之ヲ以テ
頂花ヲ會ニ説キ
漢祖ノ功臣ニ
四海ノ安危ハ
聖皇ノ叡慮ニ
華厳ノ蓮ノ
仁波秋津洲ノ外ニ
渕底ノ仏ノ
為ニ頂洋ニ
梁元ノ昔ノ
秋ノ新ニ
布ノ設ケ

セレ
リテ
ハレ
ノ
共
ノ
ノ
ノ
ス
ヲ
ム
ノ
タリ
ノ
ノ
ノ

[illegible]ハ也好ム[illegible]ヲ要ス[illegible]ハ德ノ化未ダ洽カラ
[illegible]ヲ以テ[illegible]ヲ[illegible]ル者ハ我君也
[illegible]禁酒ノ詔ニ樂ヲ[illegible]ニ
[illegible]園德ヲ[illegible]ヲ述ヒ[illegible]ヲ
[illegible]ヲ[illegible]ニ[illegible]ヲ[illegible]ル

廣高宗皇帝ノ御弟ニ
御座ス事ヲ好ミ動モスレハ
淮南ノ求神仙ノ
開奏ヲ知召レ
我ノ孝行ヲ
此君非ス同種

山荘ニ
いつまでやどるの
ミなかハわたれ

参相 付執政

季文子妾不衣帛
公孫弘身服布
百里奚食牛

寛威子銅半於東土権之任国
弘仁閑院宮国乃傳領舟北陸人
西京屋乃八千二乃是陳思相加薗宅
山荘洞窟非スヤ二司統カ幽栖
和二其貴忠仁之
皇后之父世権ス二其仁フ
傳氏嵯カ嵐離モ於殿舎ヲ
紫宸殿ハ雖モ風雪ニ渭ノ涇ニ猶清ク
春過夏闌テ秋司カ家書無レ
皇圀三八鄭太尉カ洛陽ノ荘ニ
やまさとのあるじもう
けなちそとつろれ

將軍

三尺劍ノ末ニ張ル弓ノ勢ヒ
雪中ニ敵ヲ射ル矢ノ色
多里雄猛ニテ
陣山雲暗ク
海水葉低ク
仕ヘ

鐵ノ冠ニ
等神變ヲ
雄劍ヲ
自ラ吟ジ
地響劍ニ
たまつるをわろめそうと
わけおうやいうをと

判史

甚哉亭勉強ヲ
身ヲ修ムル胡行骨ヲ
業ヲ成ス事ヲ獨リ
急ニ用ヒ私ニ
胡蘭一本ヲ喪ヒ
服ヲ脫ス人倫
於テ何ソ異ナラン

ある時漆器ヲ外ニ
わりひさぐものやうなれば
きくとりかさねて
妓女
客ニ似タリ男ニ
めでんヲ寵ヲ
外人ニ識ラレン

あまつをもうたがふことなく
とゝもにすることをこゝろ

遊女

林水(ハヤシミヅ)の松(マツ)の梢(コヅエ)の楓(カヘデ)をも
袂(タモト)も染(ソメ)よ紅葉(モミヂ)の雨(アメ)
蓑(ミノ)も袖(ソデ)も濡(ヌレ)つゝ
年(トシ)の浪(ナミ)上(カミ)一(ヒト)生(ヨ)まで
契(チギ)り後(ノチ)迄(マデ)相(アヒ)添(ソヒ)遂(トゲ)ん

こゝろよせをとゝもに

老人

黄葉(モミヂ)の雨(アメ)の染(ソメ)袖(ソデ)
老眼(ロウガン)の曇(クモ)りて
春(ハル)と惜(ヲシ)めし
秋(アキ)を見(ミ)ぬ

陽春曲詞高誰和
萬年願我君眉壽
蘭舍雪梅白髮
張僕射童顏
製文籍花園
きことわもいふ
ひとうの世こそ

たまとこと
ふもとうれ

懷舊

黃壤誰知我白頭
年渡一流水
最恨君先我
滿秋淚下

往事ハ夢ニ似リ
種々物語須臾
金谷ノ園ニ花ニ
南樓數月ノ人
多子三台ニ昇
歳之月華表ニ
墨染ノ雲ニ

述懐

專諸荊卿之感激信孺之救
窮心爲恩使命俟義報
況蠢以賤軀迎於河上
犯謝罪文亦迎於河上
所論若其辨色不親
人間猶猶愚罪
車前讓病驚
事之成身西去酔
況蠢收骨抔土
功伏弧雲白奏志

暴敵を疆外に遷し倍費を
路蓮葉のうへに尚書を
屑まず不」下」山撃」金鼓」月
鈴亜夫細柳に代り於洗根同
鴛鴦秋立憶」将」士
京下晴生消」骨処」

載鬼一車仁徳聖政
楚三閭礒紀行篇
あふてうのいろおもひそめ
もみぢのにしきもやうかな
なかめてもおもふこころは
かくりゐのあけくれ
うやまひてすめる神ろ

菜又賀

釣帆勝趣雲風願
漁舟一二道風光
遠情詩興諸公会
有報捷之張本
吏部帥卿中著緋初出堂徴
非常之恩詔雲泥今忝
荷約束之書駈
祝
喜慶今年歓事
多生憂喜辱前厚
わすれはハなもいろくつゝみもて
いそぐハ何ごとぞ

うらもとこうさんのやまをもとめつつ

あるものこそまことのかつら

意

為家雲雲雲

寛闊稍ニ至テ一町餘
奥ニ淺ク淀ノ如ク溜リ
ワラヒハゆるやかニ
あふとうみとなりたる
ものゝごとくこぬよあれど
まことにおもてそこ
いまうんとひけりと
あらうみのけの月をまつ
ごとく

朝夕ニ論ズル江湖ノ客ニ
婦子ノ角ニ事ヲ語ル
年ニ來ル客以テ數フ
生ズル必ス悔ヲ
樂ミニ耒ル天人
勉ムル所ニ非ス

30
109.12.10

和漢朗詠集 下巻

寛文七 丁未 歳初春吉辰

長尾平兵衛開板